

turbulence in the lower atmosphere, Proc. Roy. Soc., A94, 137-155.

花房龍男・藤谷徳之助・伴野 登・魚津 博, 1979:

筑波研究学園都市に新設された気象観測用鉄塔施設, 気象研究所技術報告, 第3号, 50 pp.

高橋浩一郎 監修

## 日本気象総覧(上下2巻)

東洋経済新報社, 1983, 上巻  
1064頁, 下巻1060頁, 上下  
1組195,000円



紺色の立派な箱にはいった上下2巻の気象観測のデータを纏めた本が発行された。全体では2100ページを越える分厚い本である。紙面の大きさはA4判, ほとんど数字で埋まっているから, それを含む情報は膨大な量である。ここで内容を紹介しよう。

上巻には, 地上気象観測資料を主体に全気象官署について気象要素別月別値, および主な気象要素の月別の極値と順位が書かれている。その統計期間は, 前者に対しては昭和26年(1951)から昭和57年(1982)までとなっており, 後者では観測開始から昭和57年までである。なお前者については特定の20官署の主要な気象要素に対し明治20年(1887)から昭和57年までを扱っている。そのほか, 特定官署を含む多くの官署について, 気象要素別の半月別値, 日平年値(非平滑値), 月平年値が掲載されている。なお上巻の最後には, 観測開始から昭和57年までの主な気象要素の全国順位表がのせてある。

東京管区気象台を例にとって示そう。東京は上記特定官署の一つであり, 月別値として平均気圧・平均気温・日照時間・降水量については明治20年から, 日最高気温の平均・平均相対湿度・平均風速など12項目については昭和26年からの値が示されている。ついで半月別値として平均気温・降水量(昭和42~57年)の値がある。また日平年値として平均気温・日照時間・降水量(昭和26~55年)の値, それに月平年値として標準偏差や解説用階級区分を併記した気温・相対湿度・降水量など(同じ期間)の値が記載されている。最後に, 月平均気温の高い値, 日最高気温など12項目について, 観測開始から昭和57年までの極値と順位が示されている。

下巻では, 地域気象観測システム(いわゆるアメダス)等と高層気象観測の統計値が主となっている。アメダスについては688か所の観測所の平均気温・平均風速・最多風向・日照時間・降水量・日最大降水量の月別値, それにアメダス以前の観測を主とした883か所の日最深積雪の年間最大値と起日の表が下巻のほぼ7割を占めている。

る。

ついで16気象官署の高層気象観測値について記されている。地上, 850, 700, 500, 300, 150(mb)の主要指定気圧面における平均気温・最低気温・平均湿度・平均風速・平均風向, それに平均高度が月別に示されている。これらは21時のレーウィンゾンデ観測値であり, 昭和31年から昭和55年までを5か年ごとに平均した値で表されている。

さらに, 66官署における全天日射量の月平均値(昭和42~57年)が掲載されている。また「天候ダイヤグラム」は全国主要20官署について, 昭和26年から昭和57年までの32年間の毎日の天気を記号で表したものである。そして最後に生物季節の平年値が示されている。

下巻には, これまで述べてきた各種の統計表のほかに解説編がある。第1部の気象・気候の基礎は, 監修の高橋先生はじめ編集委員の内田・朝倉・河村の諸氏が執筆している。第2部の日本各地の気候は現場のベテランがそれぞれ担当の地方の特徴を書いたものであり, 第3部の参考資料には, 統計の接続性と測器等の変遷, 気象災害年表, 文献などの記述がある。

こうして上下2巻を見てくると, 通常一般に使用する気象統計はほとんど含まれているように思われる。各種の印刷刊行物などを探す苦勞は, これで大いに軽減されるであろう。この種の統計資料の問題点は, その出典が明確に記述されているかどうかである。この本では, やや煩雑と思えるほど出典が脚注などに記されている。また, この種の書物のように, ほとんど統計数値ばかりで成り立っているような場合, 言うまでもなくその数値が正確であることが肝心である。校正には万全を期したであろうが, 誤りの皆無ということは至難のわざである。本書購入者に後日, 正誤表を送付するよう配慮されているのは, 当然とはいえ行き届いた処置といえよう。

この印刷物の下巻の解説編は170ページ余り, 執筆者は気象・気候の分野の第一人者であるので, この方面の手引き, あるいは教科書としても活用されるであろう。

総合的にいえば, これは随分立派な刊行物であり広い分野で利用されるべきものである。ただ, その量の膨大であること, 高価であることから, なかなか個人所有とまでには行かないのではなからうか。

(竹内清秀)